



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／中原 聡 福岡県教育庁北筑後教育事務所社会教育室 主任社会教育主事
柳澤 裕実 山口県生涯学習VOLOVOLOの会 事務局

中津市教育委員会 山本 健吾

分科会の進め方

13:30~13:35

1 工場見学プログラムによるキャリア教育とリサイクル・エコ教育の実践 ー(株)久保田オートパーツの「企業力」を生かした地域貢献ー

13:35~14:05

小川 歩(宮崎県宮崎市) 株式会社久保田オートパーツ 主任

きっかけはラジオ局主催の「宮崎探検隊」(平成20年)で子どもの会社見学を受け入れたことに始まる。当社は自動車部品リサイクルが本業であり、資源の再利用、自然環境を考慮したエコ発想の工場の仕事を教育見学の対象とし、「企業力」を教育に生かすことは創業者以来の夢であった。子どもの工場見学は年々増加し、24年度は32回1973名の受け入れを行った。資源循環型の社会の重要性を啓発し、リサイクルの仕事の意義をより深く実感してもらうため、見学者の増加に伴い、ワイヤレスマイクやスピーカーも設置し、分散見学や入庫ー解体ー商品化までのプロセスを一貫見学ができるよう工夫も始めた。子どもとの交流は会社の事業にも社員のモチベーションの向上にも有効である。

2 「連塾」塾生による小学生のためのキャリア教育体験講座 ー「なりたい自分」を見つけようー

14:10~14:40

角田みどり(岡山県岡山市) NPO法人連塾 副理事長(中国短期大学 教授)

「連塾」とは地域創成リーダーの養成塾である。修了塾生はそれぞれが地域の創生に関わる機会を見つけ出して活動している。本報告は、岡山県備前県民局との協働提案事業であり、平成24年5月から10ヶ月間、毎月1回「小学生のためのキャリア教育」を取り上げ、塾生がそれぞれの職業を生かして職業体験講座の指導に当たった。取り上げた職業は8種類である。プログラムの運営上、「発達障害」のある子どもや「食物アレルギー」の子どもがいて配慮や支援を要したが、体験講座自体は30~40人の受講生でももったいないという声も出るほど好評であった。今後は、「連塾」内に「キャリア教育人材バンク」を設立して、子ども集団に出前のできるアウトリーチ型の活動を実施したいと考えている。

ティータイム

14:40~15:05

3 学校支援で育てる教育の協働システムと地域の活力 ー「なかつスクスクプロジェクト山国版」ー

15:05~15:35

梶原 豊美(大分県中津市) 山国中学校区ネットワーク会議 協育コーディネーター

平成20年度に学校支援地域本部事業が導入され、中津市10中学校区で「ネットワーク会議」が発足した。山国地区には小学校1中学校1があり、学校の「支援要請計画」に基づいて継続的な支援を実施している。支援の中身は、椎茸のこま打ちから収穫、料理まで、ひょうたんのグリーンカーテンづくりからひょうたんの絵付けまで、野菜や米の農業体験から家庭科、体育科の指導まで多岐にわたっている。学校と地域の連携は、「学校支援者研修会」を工夫し、「支援者が入った授業の参観」や「学校、家庭、地域の世代間意見交流会」など具体的な協働の仕組みを生み出した。また、学校が美術や理科の領域で住民を支援する学校開放授業「山中学びの広場」の創造に繋がったのである。

4 「美里フットパス」の戦略と効果

15:40~16:10

濱田 孝正(熊本県美里町) 特定非営利活動法人美里NPOホールディングス 理事長

「フットパス」とは「散歩の小道」という意味であり、発祥はイギリスである。賛同する個人の私有地も含めて、地域のあるがままの風景を楽しみながら、人々が自由に散策するウォーキング専用の「小道網」のことを言う。美里町には伝統技法で架けられた石橋を始め、美しい田園の風景が広がっている。従来の、イベント志向的なまちおこしは「コスト」と「手間」がかかり、「費用対効果」が常に問題になるが、「フットパス」構想は、低経費であり、地域実情対応型の事業である。町では、自然重視、健康重視、文化的景観重視の昨今の傾向を生かし、月12回のガイド付きの「フットパス・ウォーキング」を主催している。事業主体は「美里フットパス協会」、当NPOが事務局を担当している。町ぐるみの活動に成長し、各地からの視察も受け入れ、事業の仕組みも整い、受け入れ地域が清掃やコースの整備に自主的に関わってくれるようになった。